



ダイヤレアアースマグネチックス(株)  
取締役社長 小林 弘昌

この度、日本ボンデッドマグネット工業協会の会長に指名され、就任いたしました。

私は、入社以来、主として特殊鋼の製鋼を中心とした製造現場の経験が長く、マグネットに係りをもったのは、平成3年5月から、またボンドマグネットについては、平成5年4月からでありまして、この業界に関しては、ずぶの素人でございます。マグネットに係わるようになったこの約3年間で、この業界について痛感いたしましたことは、変動が激しく、流れ・技術革新のスピードが、きわめて速いということでした。また、応用分野は広いが、製品のライフサイクルは、著しく短かく、私自身このスピードについて行けるだろうかという不安を、つねに感じてきました。

一方、本工業協会のあゆみにつきましては、BM News No.11 で拝読させていただきました。1981年10月の懇話会発足から、今日の工業協会にいたるまでの約13年間、先輩各位の方々と会員各位の方々が、発足時の基本的理念を脈脈と受けつぎ、基盤整備、国際的展開・交流、技術・学術的レベルアップを計るなど、幾多の苦難をのりこえて努力された結果、今日の国際的にも知名度の高い、かつ、影響力のある工業協会へ発展させてこられたことを知らされました。この間に、会員数も18社から50数社へ、また、ボンド磁石の市場規模も53億円から400億円強と著しい飛躍をとげてこられました。この間の鈴木CEOをはじめとする役員の方々のご苦勞、ご努力は、筆舌に尽しがたいものと想像させられました。

さて、この度、このような伝統と実績のある工業協会の会長を拝命いたし、この業界の全くの素人の若輩者として、身のひきしまる思いでありますとともに、私ごときが、つとまるだろうかという不安で一杯であります。これが現在の正直な心境でございます。諸先輩はじめ会員各位の方々の厳しいご指導とご鞭撻を賜わりながら、工業協会が、さらなる発展・飛躍すべく、微力でございますが、努力してまいり積りでございます。何卒、よろしくお願い申し上げます。

さて、景気の長期に亘る低迷、市況の悪化、生産拠

点の海外移転などの要因があるにもかかわらず、ボンドマグネットは、確実に伸び、その地位を一步一步高めてきました。しかし、今後のBM業界を取りまく環境は、きわめて厳しいものと考えるべきでしょう。

最近の超円高下の日本経済にとって、工場の海外移転、国外からの部品調達など、今や海外に生産拠点をシフトすることが、生き残りをかけた切り札にもなっています。このままだと、経済大国を支えてきた生産現場が、日本から消え、空洞化の一途をたどりかねない。こうした生産面の再構築は、コストダウンという形で、確実に成果は表われています。しかし、それだけでは、一層厳しくなる経営環境を乗り切ることに限界がくるであろうことも、一方で認識しておかねばならないでしょう。長期的観点に立つと、将来の日本としては、産業構造の高度化に不可欠な独創的技術の確立努力をして行かねばならないことが、必至でしょう。

少なくとも、当面の課題としては、生産技術に深くかかわる設計・開発の段階から、従来のやり方の内容の見直しをし、ユーザーに提案できる設計・開発手法を確立すべきでしょう。そうすることが、需要を創出する新しい商品を生み出す原動力となると思えるからです。

このような観点に立ちますと、BM業界においても、

- (1) 新規対象市場の開拓・拡大の努力
- (2) 高特性材料の開発
- (3) 水平的国際分業化

などに重点を置いた活動をして行かねばならないと思われま。

幸いなことに、本工業協会は、材料素材、製造機器、応用部品を含めた縦の強固で密な、また自由に交流する異業種の会員から構成されている点であります。これらの幅広い技術をもった方々が、衆知を集めることにより、前述の課題は、必ずや解決できるものと確信いたしています。先輩各位の方々、ならびに会員各位の皆様のご協力とご努力をお願い申し上げます。